黄金町 Koganecho Pick Up ピックアップ

黄金町エリアの最近の出来事や今後のイベント情報をお知らせします！

地域のイベント

毎月27日　防犯パトロール（15:00黄金町交番集合）

10月14日（土）、15日（日）　黄金町パンとコーヒーマルシェ（by はつこひ市場）
会場‖高架下スタジオSite-D集会場、かいだん広場ほか
➲詳しくは初黄日商店会のWEBサイトへ

11月26日（日）　防災炊き出し訓練
会場‖日ノ出桟橋前

11月27日（月）　初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会20周年記念式典、パトロール
会場‖高架下スタジオSite-D集会所

アートイベント

9月29日（金）～10月29日（日）　黄金町秋のバザール Koganecho International Artist's Network 2023 誰も知らないアーティスト
東アジア・東南アジアの6都市と日本の東北エリア、そして黄金町で活動しているアーティストら、総勢22組が参加します。地方都市で活動すること、そしてそれらに共通するコミュニティの課題とは何か。黄金町で新たな文化交流の可能性を探ります。
会場‖京急線日ノ出町駅・黄金町駅間の高架下スタジオほか
➲詳しくは黄金町エリアマネジメントセンターのWEBサイト、もしくは黄金町アートブックバザールとステップスリーで配布中のチラシをご参照ください。

10月14日（土）、15日（日）　のきさきアートフェア
アーティストやクリエーターのオリジナルグッズが並びます。
➲詳しくは黄金町エリアマネジメントセンターのWEBサイトへ

ぶらり　あんな店こんな店

ナマステポカラ

2011年から営業しているナマステポカラ。店名の「ナマステ」はネパール語で「こんにちは」。「ポカラ」はご主人グルング・ラムラジャさんの故郷ネパールの地名でヒマラヤ連峰の麓のリゾート地だそうです。インド式のカレーとナンが自慢です。インド式とネパール式の違いは、スパイスなどは一緒ですが、インドではナン、ネパールではライスが主流だそうです。おすすめは日替わりランチ。ぜひお試しください。

黄金町エリアマップ

1　和泉屋（海鮮居酒屋）
2　ツチヤ商会（料理道具専門店）
3　大賀堂印房（はんこ専門店）
4　竹内化成株式会社（塗料販売）
5　（有）清水経師店（住宅建材販売、内装施工）
6　（株）浜屋商店（酒卸し）
7　有限会社成岡（総合リフォーム、テント張、椅子張替など各種縫製）
8　マッスルぱっく
9　レストラン シャルドネ（洋食店）
10　角田メガネ&Cafe（ハンドドリップコーヒーとメガネの専門店）
11　柴垣理容院（横浜最古の理容店）
12　水辺荘（SUPツアー&スクール会社）
13　アトリエ日ノ出町（絵画造形教室　貸し教室）
14　横浜SUP倶楽部（SUPスクール）
15　Tinys Yokohama Hinodecho（カフェ&ホステル）
16　gallery made in Koganecho（ギャラリー）
17　Chair COFFEE ROASTERS（コーヒー焙煎所&カフェ）
18　黄金町アートブックバザール（アート系書籍販売）
19　株式会社　佐野屋本店（駄菓子・玩具問屋）
20　小林紙工株式会社（パッケージ・ラッピング専門店）
21　（株）石井（衣料品店）
22　Farm Deli&Bar by yokohama vegemate project（Local&Organic 農家直営 野菜のデリとナチュラルワイン・自家製フルーツカクテル専門店）
23　縁とりー（焼鳥）
24　日ノ出町整骨院（整体）
25　永野鰹節店（だし材料専門店）
26　FOOTPRINT（アジアンリゾートDining）
27　ナマステポカラ（インド・ネパール料理）
28　株式会社塚田商店（はきものの卸売り）
29　WINE & CAFE Kanakoya（ワインバー）
30　ステーキ134（ステーキ店）
31　ビブラビブレ（インテリア雑貨・婦人服専門店）
32　日の出薬局（薬局）
33　笠原会計事務所（会計事務所）
34　庄兵衛（焼鳥専門店）
35　ミツワグリル（ハンバーグ）
36　第一亭（台湾料理）
37　遊膳グレビー（和洋会席のレストラン）
38　Southbound（アメリカンクラフトビール専門店）
39　シネマ・ジャック&ベティ（映画館）
40　若葉町ウォーフ（劇場）

黄金町まちづくりニュース vol.138　発行・お問合せ：初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会、特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター
〒231-0054横浜市中区黄金町1-4先 高架下スタジオSite-B　TEL 045-261-5467　E-MAIL info@koganecho.net　WEB https://koganecho.net/　デザイン：大村政之（クルール）

黄金町まちづくりニュース

vol.138 2023年9月号　発行：初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

今年の初黄、赤英町夏休みラジオ体操は、7月21日から31日迄の11日間、初黄町内会館前で行われました。お天気にも恵まれ、毎回約60名が参加しました。

早朝から目をこすりながら「おはよう」とあいさつする子供達や「足が痛くて」「今日は病院」と話が弾む高齢者のみなさん。ラジオから音楽が流れると、自然と体が動き出します。

ラジオ体操第2が終わると、ヤクルトを1本もらって帰ります。久し振りの町内の風景、私は好きだな。

8月には4年振りの子神社のお祭りも行われ、各町内が協力して地域を盛り上げました。

絵：竹本真紀

山田裕介さん、市長表彰おめでとうございます！

5月25日に開催された、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会の令和5年度総会にて、この地域にアーティストとして貢献してこられた山田裕介氏が、地域再生まちづくり貢献者として市長表彰されました。

以下、ご挨拶の一部を紹介いたします。

「この街は、もっと良くなると思います。大人たちが夢見ることを繰り返すことによって変わっていく。彫刻科が固い御影石を少しずつ彫り、形作るように、この街を少しずつ変えていく。完成はしないのかもしれないけど、創造した方向に彫り進むことができるのではないでしょうか。」

挨拶する山田さん

〈若者に聞く〉

まちづくりニュースvol.135・136号で掲載した「古老に聞く」では、この地域の戦前から戦後にかけての様子についてお話を伺いました。今回は、若い世代のみなさんに、まちへの想いについて伺います。

その1　日ノ出町にお住いの塚田匠さん（20歳）に伺いました。

聞き手：広報イベント部会　塚田泰久

聞き手：今住んでるこの街の好きなところはどんなところですか？

匠：一つは人と人の繋がりが強いところです。小さな頃からお祭りにずっと参加したり、家族ぐるみでたくさんの知り合いの人がいたりと、街の人に育ててもらったみたいな感覚があります。

あとは大岡川をはじめとした景観や、それを街おこし的に盛り上げていろんなことやってる人がいて、活気があると思います。

聞：この街の自慢できるところはどんなところですか？

匠：そうですね、横浜の中心部にあって立地がいいところです。あとはやっぱり桜がすごく綺麗。

聞：嫌いなところはどんなところですか？

匠：たまに酔っ払いのおっちゃんが多かったりする部分。

聞：この街が良くなるにはどうしたらいいと思いますか？

匠：最近はコロナが流行ったり、人と人の繋がりが弱まってきていると感じます。僕は小さい頃からまちのいろんな人に育てられ、まちの温もりを感じていたので、そういう部分が戻ってくるのが非常に大切だと思います。また、両隣の野毛や黄金町が頑張っている中で、せっかく盛り上がっている町と町を接続する大事な部分なので、もっとまちを盛り上げていけたら良いと思います。そういう意味では、僕は子神社は外せないと思っています。小さな頃からラジオ体操やるにも、夏祭りにも年越しにも子神社のコミュニティっていうのが街のコミュニティそのもので、それがすごく大事な部分で。何かそういうところをもっと注目してやっていったりしても面白いかなと思っています。

その2　日ノ出町にお住いの新紗季さん（25歳）に伺いました。

聞き手：広報イベント部会　塚田泰久

聞き手：今住んでるこの街の好きなところはどんなところですか？

新：父が町内の青年会に参加してたこともあるんですけど、みんなが家族みたいな感じがすごくするところが、いいところだなと思います。

聞：この街の自慢できるところはどんなことかな。

新：小さい時からお祭りとかによく参加してたので…。お祭りとかが結構盛ん、あるのがいいなと。

聞：逆に好きでないところはどうでしょう。

新：好きでないところは……治安があんまり良くないよね、って他の方から言われることが多いなと思います。そんなことないですよって言うんですけど、そういうイメージがあるのかなと。

聞：この街が良くなるにはどうしたらいいと思いますか。

新：桜まつりとかすごい有名だよね、って言われるので、お祭りとかで、地道に悪いイメージをなくしていくのがいいのかなと思います。

聞：小さい頃、家族で行って楽しかったところや思い出はありますか。

新：桜まつりと、夏は夏祭りと、秋は運動会です。あと、冬は餅つき。なんか、もうそれぞれイベントが春夏秋冬であったので、それはすごいもう。

聞：では、最後に何か一言あれば（笑）

新：どこに住んでるのって言われて、日ノ出町っていうと、あ、ちょっと危ない街だねって言われるんですけど、全然そんなことないよって結構自信持って言えるので、すごくいい街だなと思います。頑張りましょう。

その3　レストランシャルドネ（初音町）の秋成勇輔さん（37歳）と翔太さん（33歳）に伺いました。

聞き手：広報イベント部会　秋成由美子

聞き手：今住んでいるこの街の好きなところ、どんなところかな。

勇：近所の人たちも、おじいちゃんおばあちゃんたちとかも接しやすくて、お店に来てくれるお客さんやご近所さんとかもすごくいい人ばっかりだなっていうのを感じます。

翔：地域の人が明るい印象がある、そういうところがいいかな。

聞：この街の自慢できるようなところ、何かありますか。

勇：高架下でイベントやアートとかでいろんなのをやってるので、地元じゃない人に向けても良いアピールになっているのかなと思います。

翔：昔ながらのいいところと、今風な、学生とかも活動してる、いろいろな人たちが来てくれてるから、すごいんじゃないですかね。

聞：そうね。そうだね。嫌いなところはあるかしら。

勇：嫌いというか、個人店が減ってきてる感じがするので、通り沿いに飲食店も少なくなってきてるし、もうちょっと活性化されるといいのかな。

聞：この街が良くなるにはどうしたらいいと思いますか？

勇：たくさんの人が来て、この街のことを知ってもらったりできる環境になればいいと思うし、人が来てくれることによって、個人経営してるお店とかも相乗効果でお客さんが増えたり、そういうことが重なっていけば、街自体も元気になってくるのかなと思う。

翔：そんなに変える必要はないと思いますけど。うちみたいな老舗の洋食店も長く続けていく、いける街が良いと思うし、新しい人がどんどん来て、アートとかも活性化すると思うので。昔のいいところと、また新しいものが融合すればいいんじゃないすかね。

聞：この街で思い出に残ってることとか、何かあるかしら。

勇・翔：お祭りとかラジオ体操、初詣。ラジオ体操は朝なかなか起きられなかった。お祭りは、夜店とかで遊んだのは結構記憶にあるかな。町内のお店や日ノ出町の夜店に行ったり。お祭りの後に町内のそば屋で丼ぶり食べて、入湯券をもらって「松の湯」に入った。

翔：僕は東小学校でソフトボールやったり、東っ子フェスティバル。この街の思い出は小学校の頃が強いですね。

勇：野毛山のプールは友達と行った。

翔：僕もプールはよく行った。そこら辺の草むらで遊んだりとか。

聞：やっぱりお店をやってるから、同級生とか、先生たちもたまに来てくれる、そういう意味で街とつながっている。お店もはつこひ市場とか出しているので、そういうので活性化できたらいいと思ってます。

七月の壁の影

Behind the wall of July

今年の7月7日から23日の期間、黄金町エリアマネジメントセンターでは、【七月の壁の影】という展覧会を開催しました。本展は「生活の中で、作品はどのように存在し、機能し、鑑賞されうるか」という問いをテーマに、それぞれ異なる地域を拠点とする４名のアーティストによる新作と、既存の常設展示を組み合わせた展示企画でした。ここでは、4名のアーティストが黄金町を舞台として発表した新作にフォーカスを当てて報告をいたします。

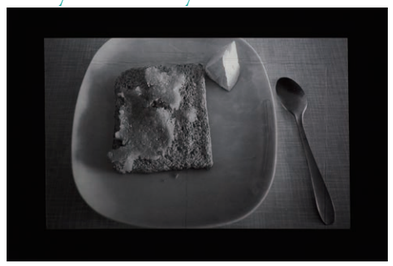
瀧 健太郎
Taki Kentaro

『ドラウニング・スカル』
2023 家電廃材、木、単管パイプ、プロジェクター、スピーカー

高架下ロックカクという、京急線の高架下の空き地に巨大な三角形の白いスクリーンのような物体が出現。よくよく見てみれば、そのスクリーンは、テレビや扇風機、エアコンやパソコンのキーボードなど廃棄された家電を解体しバラバラになった部品によって構成されている。日が沈むとスクリーンには、黄金町で撮影された看板、アスファルトのパターン、標識、注意書き、ネオンなどの映像がランダムに投影される。タイトルの『ドラウニング・スカル』とは "溺れる頭蓋骨" の意味。高架下の影に浮かび上がるのは、大量消費社会への警鐘、あるいは人がいなくなった後（未来）の風景なのか。

平山 好哉
Hirayama Yoshiya

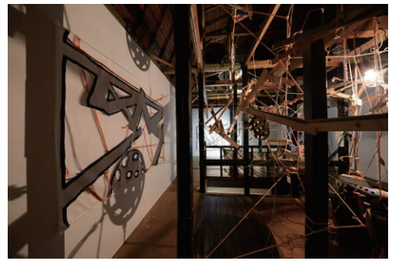
『untitled』
2023 映像



八番館１階、真っ暗な小部屋。男女の囁き声が部屋全体に響き渡る中、白黒の静止画をつなぎ合わせた映像が淡々と投影されている。そこに映し出されるのは西欧の何処かの都市で撮影されたと思しき画像群。一見するとバラバラで、目的もなく撮影された日常風景のようにも見えるが、じっと見ていると、ストーリーのようなものをうっすらと感じとれる。時代背景はいつで、それが何処で、登場人物が誰なのかは明示されていない、にもかかわらず、観るものが自身の中で勝手に作り上げ、暗闇の中に立ち現れる、いつかの、何処かの、誰かの、物語。

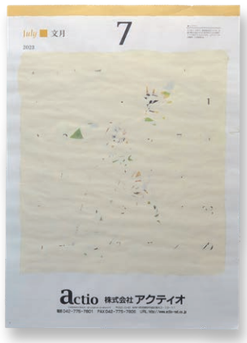
中村 邦生
Nakamura Kunio

『巣トレーナーズハウ巣』
2023 廃材、ロープ、八番館２階全体



八番館の２階では、縦横無尽にロープが張り巡らされ、所々に黄金町近隣で集められた廃材が結ばれている。会期を通じて日々、結ばれるものは作家の手によって増えていき、空間全体も日々変容していく。まるで蜘蛛や鳥の巣がその主によって徐々に完成されていくように。部屋の中央には光源があり、ロープや集められたものの影を壁に映し出す。その影をトレースすることから作り出される平面作品も会期が進むごとに徐々に出来上がっていく。この街で集められた見捨てられたものが落とす影とそこから新たに生まれる絵画群。

千原 真実
Chihara Mami

『風景P#３、#４、#５』
全て2023「ニュー・ニューウェーブ・フクオカ」のフライヤー、スタジオのカレンダー、カレンダー写真、アクリル絵の具

Site-Aギャラリー裏のウィンドウギャラリーに展示された２点の平面作品。何処かの風景？あるいは抽象画？しかし、絵の周りに印字された情報やキャプションから、この作品が既製品のカレンダーや以前黄金町で開催された展覧会のチラシを背景として白いアクリル絵の具が塗られているだけなのだとわかる。風景あるいは抽象画を構成していると思っていた「色」はカレンダーやチラシに元々印刷されていた画像の一部だったのだ。ではここで、観るものの頭に浮かび上がった風景あるいは抽象画は、誰が描いたものだったのか。いや、もしかしたら、私たちは何かが何かで遮られることで出来た「影」を見ていただけなのだろうか。